

授業科目名称 : 加齢と障害に関する理解

授業コード : 23624

授業科目英文名称 : Understanding Aging and Disability

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
柳智盛（実務経験のある教員）、※田中千恵美（実務経験のある教員）			
展開方法	講義		
ナンバリング	DF301		
添付ファイル			

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	高齢者や障害者の尊厳を守る個別ケアの基本を理解し、それを用いて説明ができる。	・定期試験	40%
情報収集、分析力	高齢者や障害者の生活や心理的特性についての諸問題及び取り組み方について調べ、それに対し指摘できる。	・定期試験 ・課題レポート	10% 10%
コミュニケーション力			
協働・課題解決力	高齢者や障害者に対する諸問題の解決に向けて、専門家の立場から自らの考えを述べることができる。	・定期試験 ・課題レポート	10% 10%
多様性理解力	高齢者や障害者の多様性を理解し、専門家として具体的にどのように接していくのかなどの支援を考えられる力を培うことができる。	・定期試験 ・課題レポート	10% 10%
出席		受験要件	
合計		100%	

授業のねらい	教育職員免許状（高校・福祉）の取得に必要な科目である。人の誕生から死に至るまでの心身の発達や、成長・成熟・生理的变化について理解する。また、老化に伴う心身の変化やそれらが日常生活に及ぼす影響、高齢者の気持ち、高齢期の健康、認知症及び障害について深く理解し、高齢者・障害者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本を理解する。こうした理解を経て、福祉の基礎的な知識と技術を理解することのできる人材を育成する。				
アクティブラーニングの類型	③⑤⑨⑩				
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	・定期試験の評価は70%とし、2人の担当者ごとの授業内容について筆記試験を行い、評価の配分に示した通りに評価を行う。課題レポートは、毎回の授業終了時に提示される課題及び感想の内容を30%とし評価した上で、定期試験と総合評価を行う。なお、課題レポートについては、授業中又は「ポートフォリオ」を通して次の授業でフィードバックする。 ・定期試験は担当者によるが、基本的に選択式・穴埋め式・記述形式のいずれかで問う。設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べるかを評価する。 ・評価の配分は、柳担当（8回）と田中担当（7回）の担当コマ数の配分に合わせて評価をする。				
授業概要	人間の成長と発達の基礎的理解を基盤に、老年期の発達と成長、高齢者の心理・健康・日常生活支援、及び障害の基礎や捉え方、その日常生活について医療現場で医師の経験を持つ教員と心理臨床の現場での経験を持つ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。基本的に講義形式で行うが、授業内容によっては質問応答のディスカッション形式のワークの体験を取り入れていく。 授業の担当者は、1～8回を柳、9～15回を田中が担当する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。				
教科書・参考書・指定図書	教科書：特に指定しない。 参考書：授業の中で適宜紹介していくため準備は必要ない。 指定図書：新・介護福祉士養成講座『発達と老化の理解』及び『障害の理解』中央法規				
授業外における学修及び学生に期待すること	将来介護を学ぶ学生を教える教員を目指す者として、高齢者や障害のある人々の気持ちを理解することは重要なことである。高齢者・障害者やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識の習得だけでなく、ハンディキャップのある人のことを具体的に考えて取り組むこと。遅刻・授業中の私語等学習態度については厳しく対処する。				
授業計画	回	テーマ	授業の内容	予習・復習	担当教員
	1	人間の成長と発達、発達段階と発達課題	人間の発達における各発達段階理論や、段階ごとの課題について学ぶ。	予：発達段階、発達課題とは何かを調べておくこと。 復：発達理論を覚える。	柳
	2	老年期の定義、老化とは、老年期の発達課題	特に発達段階における老年期について、その定義や発達課題について学ぶ。	予：老年期の特徴を調べておくこと。 復：老年期の特徴を理解する。	柳

3	高齢者の生活ニーズ	人口の少子高齢化と家族形態の変化を理解し、老化によって生じる生活ニーズについて学ぶ。	予：高齢者の生活ニーズについて調べておく。 復：社会の変化を理解する。	柳
4	高齢者の心の問題、要介護による高齢者の心理	高齢者にはどのような心の問題が起こるのか、また要介護者の心理について学ぶ。	予：高齢者の心の諸問題について調べておくこと。 復：高齢者心理を理解する。	柳
5	高齢者の心理の理解① －欲求と適応機制－	人間の欲求と適応機制を理解し、高齢者及び障害者の適応について考える。	予：適応機制について理解しておくこと。 復：高齢者の適応を理解する。	柳
6	高齢者の心理の理解② －知能と記憶－	人間の知能と記憶を理解し、高齢者及び障害者と関連付けて考える。	予：知能・記憶について理解しておくこと。 復：高齢者・障害者との関連性を理解する。	柳
7	知的障害、発達障害に対する理解	知的障害、発達障害の基礎的な各側面と心理的特徴について理解する。	予：知的障害、発達障害の概要を調べておくこと。 復：各障害の心理的特徴を理解する。	柳
8	・加齢と障害の関連性 ・まとめ	・加齢に伴う生じる様々な変化と障害との関連性について考える。 ・1回～8回分の内容のまとめを行う。	予：加齢と障害の関連性について理解する。 復：8回の授業を振り返る。	柳
9	老化に伴う身体的・精神的機能の変化と日常生活への影響(1)	老化が及ぼす身体機能の変化や、精神的な変化について学び、老化が日常生活に及ぼす様々な影響を理解する。	予：老化による身体・精神機能の変化を調べておくこと。 復：老化による日常生活の変化について理解する。	※田中
10	老化に伴う身体的・精神的機能の変化と日常生活への影響(2)	老化が及ぼす身体機能の変化や、精神的な変化について学び、老化が日常生活に及ぼす様々な影響を理解する。	予：老化による身体・精神機能の変化を調べておくこと。 復：老化による日常生活の変化について理解する。	※田中
11	認知症の基礎的理解	認知症の疫学、原因、診断法、最近の治療法について理解する。	予：認知症の基本的な事項について調べておくこと。 復：認知症の基本知識を覚える。	※田中
12	認知症に伴う心身の変化について	認知症による身体的変化や精神的変化について学び、日常生活上の様々な問題点を理解する。	予：認知症による身体・精神の変化について調べておくこと。 復：認知症による日常生活の問題を理解する。	※田中
13	障害に対する基礎的理解(1)	老化に伴う障害、多くの内部機能障害についてその基本的考え方を理解する。	予：内部機能障害の基礎的事柄について調べておくこと。 復：障害の基礎知識を覚える。	※田中
14	障害に対する基礎的理解(2)	老化に伴う障害、多くの内部機能障害についてその基本的考え方を理解する。	予：内部機能障害の基礎的事柄について調べておくこと。 復：障害の基礎知識を覚える。	※田中
15	・各種障害に対する理解 ・まとめ	・障害、特に内部機能障害に対して、その病態、症状、対処法について学ぶ。 ・9回～15回分の内容のまとめを行う。	予：内部障害の対処法について調べておくこと。 復：講義全体を振り返る。	※田中
16	定期試験			